

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	272300682		
法人名	株式会社介護サポート		
事業所名	グループホームあすか		
所在地 (電話番号)	〒036-0114 青森県平川市町居西田111番地1 (電 話) 0172-43-1165		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 3月 14日	評価確定日	平成 20年 4月 8日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 5月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋二階建 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 ~ 冬期3,000 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要( 2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 76 歳	最低 63 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂本アレルギー呼吸器科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスと併設された施設で2階のフロアがグループホームとなっている。田園地帯とりんごの生産地の集落に立地しており、窓からの眺めがよい。又、ベランダも広く作られており、利用者が外の空気を吸いながら憩いの時間が楽しめそうである。職員は全員常勤であり、シフトも分かりやすい。職員の動きから、ゆったりした介護を実践されていることがうかがえる。食事についてはメニューが豊富であり、特色といえる。入浴は、以前温泉施設だったものを生かしており、広くて、気持ちのよさそうな浴室である。2階であることから外出の際はエレベーターが設置されており、安全に移動することができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	特に要改善点としてはなかったが、話し合いの中で議題としてあがった、ホール以外でのちょっとした座れる場所の確保など、検討されて実践している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今後の課題としてキャラバンメイトへの参加が検討されており、運営推進会議を有意義に開催する為、包括支援センターへの働きかけなど、自己評価から取り組むことにしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	第一回目を開催したばかりであり、今後が期待される。今回は認知症の理解をテーマに説明し、協力を依頼するとともに、施設の利用料金や食事のことにについてなど参加者の質問に答えたりしながら開催した。また、地域の団体の長や民生委員から地域の行事などについて紹介されたりした。今後は情報をもとに地域の一員としていっそうかかわっていききたい姿勢がみられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	又、面会時や電話連絡時など意見を聞くようにしている。入り口に面会簿を置き、その横に意見受付ポストを設置し、運営に反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会し、回覧板を相互に回して歩いたり、年に2~3回のごみ拾い活動に参加したり、夏祭りや農業祭のイベントを通して交流を図っている。又、民生委員や老人クラブの方に、認知症の理解をしてもらうため、講習会を開催したりしている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本意に、あたたかみのある理念が作り上げられている。事業所独自の介護のあり方は感じるが、地域のもとでのサービスとしての理念となっていない。		地域住民との交流も視野に入れた、地域密着型のサービスとしての理念作りに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや、月一回の職員会議で、管理者より理念の実践のための確認がなされており、職員との面談でも浸透していることが確認された。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入会し、回覧板を相互に回して歩いたり、年2～3回町内のごみ拾いや夏祭り、農業祭のイベント参加を通じて交流したりしている。又、民生委員や老人クラブ代表者へ認知症の理解をしてもらうために講習会を開催をする等、地域住民との交流をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	昨年度の評価を踏まえ、改善すべきところは、職員全員で話し合い改善されている。管理者、職員の間でも自己評価と外部評価の意義を共通認識されている。		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	今年に入り第一回目の会議が開催され、民生委員・町内会長・家族・本人・市職員・グループホーム職員が参加している。初回でもあり、施設の紹介や利用料金の説明などが議題の中心であり、今後の内容が課題である。		今後、共通課題を持ちながらグループホームや参加者にとって有意義な会議にしていける事と定期的に関催できることを期待します。
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議だけにとらわれず、普段から市役所に出向き書類の書き方などを教えていただきながら、情報を交換したりアドバイスをしてもらったりしている。		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	入居されている方で成年後見人をつけている方がおり、学ぶ機会がある。職員間でも共通認識を持ち、必要な方へは活用できるように支援している。		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待については、会議でもその都度話し合いと勉強し、あってはならないことを認識している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明を充分に行い、長期入院した場合など、退院後も安心した生活が送れるように利用者やご家族が納得いく説明をしている。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度定期的に便りの送付をしており、その際に利用者の状況報告をしている。金銭の出し入れについても出納帳をコピーして報告している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に意見を聞くようにし、面会簿のところに、苦情受け付けポストを設置し意見を出しやすいようにしている。またグループホームだけでなく第三者機関など外部にも機会があることを説明されている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者も少なく、なじみの関係ができています。今後退職者があったとしても、個人の精神状態にあった対応で入居者へのダメージを防ぐように体制ができています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加について、職員みんなが行けるように計画されている。職場内の研修も月一回の会議を通して行われており、外部研修に参加された職員から内部研修を通して全員が学ぶ機会がある。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催で年10回ほどの研修会があり、全職員が参加できるようにしている。又、同じグループ内で経営しているグループホームの職員同士の話し合いを通して、意見交換が行われている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り、自宅に近い環境設定を基本に考えていて、食器類やテレビなどの持込が自由になされている。又、入居されて日が浅い方へは、可能な限りご家族の面会を多くしてもらうなどの配慮がされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あくまでも入居者本位の生活支援を考え、本人のペースで生活していただけるように、会話を多くして笑顔を引きだせるようにされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いを、本人との会話を通してやご家族から情報を頂きながら把握に努められ、カンファレンスで検討されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人、ご家族、職員から情報を集め、本人が安心して生活できるように介護計画が作成されている。		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月ごとに計画書の見直しと、状態の変化時に本人、ご家族とも話し合い、計画書を作成されている。又、その計画書については職員間で共有されており、計画に即した介護が実践されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	近くの保育園との交流を通して、入居者も楽しみを見出したり、入居者が作った雑巾を保育園に寄贈されたりしている。また、民生委員が毎月、介護券を持ちながら来てくれ交流されている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医はいるが、在宅からの継続医療の希望者は継続していただき、本人、ご家族の意向を取り入れ受診介助されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居されるときに説明され、状態変化時にはかかりつけ医やご家族と話し合い、ご本人にとって良い方向になるように支援されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁されたときの衣服の交換や日常の対応での言葉がけで、ご本人の状態が、第三者に察知されないように気をつけた対応をされている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを最優先した考えの下に生活支援され、残存機能の向上のために、歩行訓練や食事の下ごしらえ、掃除など職員が一緒に行いながら支援されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態や能力に応じた食事の提供に心がけ、さりげない介助をして落ち着いて食事ができるように配慮されている。また、準備や食後の片付けも職員と一緒にいき、残存能力を発揮できるように支援されている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本に、もっと回数を多く入浴したい方へは、入浴回数を増やしている。また職員と入居者の話し合いで、夕食後の入浴支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物希望がある方へは、一緒にスーパーへ出かけたり、食材の下ごしらえができる方は、野菜を切っていたりしている。夏になると野菜を作るなど、ご本人の生活歴を活かした生活支援をされている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ショッピングや屋外散策など日常的に支援されている。認知症による徘徊や外に出たい願望が見られる利用者には希望を勘案して戸外を散歩したり、自宅に出かけたりして安心していただくよう支援されている。		



外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないというケアについては全員意思統一されているが、介護保険法における指定基準は理解されていない。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についてマニュアルなど作成し、共通認識をもたれることが望まれる。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	洗剤や消毒剤などの保管の部屋以外は施錠されており、利用者に圧迫感が感じられないようにしている。階段の降り口も塞いだりしないで職員の見守りによって、事故が発生しないようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間と日中の火災を想定した避難訓練を行っている。また消防署が一分ぐらいの距離の所にあり、連絡をとり協力体制を作っている。消防署からは、AEDの使い方などの研修も受けている。その他具体的に火元による、避難通路など指導を受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ施設にある、デイサービスの栄養士が献立を作成し、食事や水分摂取量の把握に努めチェック表の作成をに対応されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成がされている。例として掃除の時はハイターの薄め液で拭き掃除をすることや、手洗いを徹底するように対応されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いたるところに観葉植物が置かれ、季節感のある装飾もされている。廊下には一人になれるように椅子とテーブルが置かれていたり、食堂には食後くつろげるソファを置いたりするなど配慮されている。外気を入れるなど換気にも気をつけている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビを持ち込んだり、ご本人が気に入っているものを置いたりしている。また、入居者の目線に施設職員が作った日めくりのカレンダーが下げられていて、数字も大きくメモが取れるようになっていて工夫されている。		

 は、重点項目。